

1 単元名 「ヨシ行けどんどんん作戦」

2 単元の目標

- 「ヨシ行けどんどんん作戦」の意義や地域の水辺の環境の課題、ヨシが水辺で果たす役割を理解している。(知識・技能)
- 地域の水辺の環境の課題や、「ヨシ行けどんどんん作戦」の活動が地域の環境に与える効果を考え、表現できる。(思考・判断・表現)
- ヨシが水辺で果たす役割を理解した上で、なかまとヨシの苗を育て、なかまや地域の人と協力してヨシ苗の植栽をすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元では、本校で長年行われている「ヨシ行けどんどんん作戦」の活動を教材として取り上げる。

「ヨシ行けどんどんん作戦」の活動が始まった経緯や、活動を始めた人たちの思いを考えることを通して、地域の自然環境とその課題に目を向けるきっかけとなる。また、琵琶湖博物館学芸員という専門家の方をお呼びして話を伺うことを通して、なぜヨシを植えることが環境に良いのか、ヨシが水辺の環境で果たす役割、琵琶湖の環境の現状など、地域の自然環境の現状と課題について確かな知識を得ることができる。得た知識をもとに、「ヨシ行けどんどんん作戦」の意義を理解し、地域の環境課題について主体的に取り組むことができるようになる。

また、長年同じ場所で活動を続けていることから、一度失われた自然環境は、簡単にはもとに戻らないことを学ぶ機会となる。

(2) 生徒観

「ヨシ行けどんどんん作戦」は、長年、全校で取り組んでいる活動である。2年生の子どもたちは、すでに一度活動を経験しており、おおよその活動内容も理解している者も多い。しかし、活動の背景にあるものを十分に理解している生徒は少ない。2年生では、ただ作業をするだけでなく、活動に込められた思い、地域の環境と「ヨシ行けどんどんん作戦」の関連性、なぜヨシなのか、などを考えることを通して、地域の環境保全について考えるきっかけとしたい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、5月に地域に生えているヨシを刈り、葉を取り除いてから本校自作のヨシプールに浮かべることからはじめる。しばらくするとヨシの節から新しい芽と根が出てくる。生徒たちに、自分たちが植栽するヨシ苗の日々の成長を目の当たりにさせ、自然環境に興味をもたせ、「ヨシ行けどんどんん作戦」への意欲を高める。

次に、本校自作の読み物資料「ヨシ行けどんどんん作戦」を通して、活動が始まった経緯や、活動を始めた人たちの思いを考えることで、地域の自然環境とその課題に目を向けるきっかけとする。また、琵琶湖博物館の学芸員の方を本校にお招きして話を伺うことで、琵琶湖の環境の現状やヨシの水辺での役割など、自分たちが行う「ヨシ行けどんどんん作戦」と地域の環境保全との関係について科学的な視点から知識を得る。

7月には、育ててきたヨシ苗を学年ごとに自分たちで1つずつ育苗用のポットに植え、合計2000～3000のヨシ苗をさらに育てていく。全学年による活動を通して、1人では難しくても全校で協力することで地域の水辺の環境の保全に貢献できることがある、と実感させる。

そして9月には、5月から育ててきたヨシの苗を全校生徒とPTAで協力して琵琶湖岸に植栽する。地域や学校、PTAが協力して取り組むことで、地元の自然環境の保全に貢献できることがあるんだということに改めて気づかせる。また、長年同じ場所で活動を続けていることから、一度失われた自然環境は簡単にはもとに戻らないことを学ぶとともに、今ある自然守っていくためにできることを考える機会とする。

3月には、琵琶湖岸のヨシを刈り取り、新しいヨシの発芽を促す。新しく育つヨシが次年度のヨシ苗につながり、次年度の「ヨシ行けどんどん作戦」につながることを意識づける。

1年を通して活動を行うことで地域の環境保全への意識を高めたい。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

相互性・・・豊かさを求めて変化していった人間の生活と地域の自然環境の変化には、関係があるんだということ。

連携性・・・1人では難しくても、地域や学校、PTAが協力して取り組むことで、地元の自然環境の保全に貢献できることがあるんだということ。

責任性・・・今ある地域の自然を未来に残していくのは、この地域で暮らす自分たちの使命であるということ。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

他者と協力する態度

地域の環境保全、という1人だけでは難しい課題や活動も、地域や学校が協力することで成し遂げることができる。

批判的に考える力

ヨシがうまく育たないのは原因があるのではないか、何かやり方を改善できるのではないか、と考えようとする。

進んで参加する態度

学校の仲間や地域の方々と交流しながら一緒に「ヨシ行けどんどん作戦」の活動に参加しようとする。ヨシ苗の育成やヨシ苗のポット植えなど、ヨシの植栽までの活動にも仲間とともに参加しようとする。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正

今ある地域の自然環境や、長年、地域・学校・PTAが協力して取り組んできた「ヨシ行けどんどん作戦」の活動は、次の世代へと引き継いでいかななくてはならない。

自然環境、生態系の保全を重視する

失われた地元の美しい自然や風景は簡単には戻らないが、その自然を守っていくためには、自分たちの今の暮らし方を変えていく必要もある。

・達成が期待される SDGs

6 安全な水

15 陸の豊かさ

4. 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
①「ヨシ行けどんどん作戦」に込められた思いや活動の意義を理解している。 ②ヨシが水辺の環境で果たす役割を理解している。	①地域の環境の現状・課題と「ヨシ行けどんどん作戦」のつながりを理解し、地域の環境保全について、自分の考えを表現している。	①なかまや地域の人と協力して「ヨシ行けどんどん作戦」の活動に取り組んでいる。

5. 単元の指導計画

学習活動	○学習への支援	○評価・備考
1. 本校自作の読み物教材「ヨシ行けどんどん作戦」を読み、活動が始まった経緯・活動に込められた思いを考える。 ・この地域は、田舎で自然がたくさんあると思っていたけれど、その自然が無くなってきているのか・・・。 ・なぜヨシ行けどんどん作戦が行われるようになったんだろう。 ・活動を始めた人たちは地域の自然を大切にしたいと思っていたのか・・・。	○活動内容よりも、登場人物の心情の変化に注目して学習を進めていく。	(ア) ①
2. 刈り取ったヨシ、1本1本の葉を取り除き、ヨシプールに浮かべる。 ススキとヨシを区別しながら活動を行う。 ・ここから、自分たちが植えるヨシが育つんだ。	○実物のヨシを提示し、どこから新芽が出てくるのか伝える。 ○ヨシとススキの区別のポイントを伝える。	(ウ) ①
3. 琵琶湖博物館学芸員の方から、琵琶湖の環境の変化、ヨシの役割などについてお話を伺う。 ・なぜ、ヨシを植えるのだろう。 ・ヨシの役割は？ ・「ヨシ行けどんどん作戦」の活動は環境にとってどのように良いのだろう。	○話を伺って知ったことや疑問に思ったことをメモするようにする。 ○「ヨシ行けどんどん作戦」と地域の環境保全関係を自分の言葉で書かせる。	(ア) ② (イ) ①
4. 育ったヨシの苗を1本ずつ育苗用ポットに植えつけ、さらにヨシの苗を育てる。作業を分担して活動を進める。	○育苗用ポットへの植えつけの手本を示し、子どもたちと一緒に作業をする。	(ウ) ①

<p>5. (1) 琵琶湖岸の清掃活動を行う。</p> <p>・普段は気にしなかったけど、こんなにたくさんゴミが琵琶湖に捨てられているのか・・・。</p> <p>(2) 琵琶湖岸に自分たちが育てたヨシの苗を植栽する。</p> <p>・自分たちが植えたこのヨシが育って、琵琶湖の浄化に役立つといいな。</p>	<p>○ゴミは種類ごとに分別して集めるように指示する。</p> <p>○過去に先輩たちが植栽し、育ったヨシを見せ、役割を果たしていることを紹介し、「ヨシ行けどんどん作戦」と地域の環境のつながりを確認する。</p> <p>○植えたヨシが波に流されないように、穴を深く掘って苗を植えるように指示する。</p>	<p>(ア) ①② (ウ) ①</p>
<p>6. 活動の振り返りをする</p> <p>・地元の自然環境を今後に残していきたい。</p> <p>・「ヨシ行けどんどん作戦」を</p> <p>・自分たちが植えたこのヨシが育って、琵琶湖の浄化に貢献してくれるといいな。</p>	<p>○これまでの活動を通して、「ヨシ行けどんどん作戦」に込められた思いや意義、地域の環境保全について、考えたことを自分の言葉で表現させる。</p>	<p>(イ) ①</p>
<p>7. 今までに「ヨシ行けどんどん作戦」で植栽し、育ったヨシを刈り取る。</p> <p>・ここから新しいヨシが育ち、来年の「ヨシ行けどんどん作戦」につながるんだ。</p>	<p>○ヨシは、刈り取ったところから新しく芽が出て育つことを説明する。</p> <p>そして、新しく育ったヨシが次の「ヨシ行けどんどん作戦」の苗につながることを伝える。</p>	<p>(ウ) ①</p>
<p>8. 委員会や生徒会で定期的に植栽したヨシのようすを観察し、全校生徒に発信していく。</p> <p>・順調に育っているな。がんばって育ててほしい。</p> <p>・この調子でここに根付いて、水の浄化に役立ってほしいな。</p>	<p>○ヨシを植えて終わりではなく、そのヨシが育っていることを子どもたちに伝え、自分たちの活動の意義を実感させる。</p>	<p>(イ) ①</p>
<p>9. 委員会や生徒会で、ヨシを植えた水辺の水質や水辺の環境の指標となる生物の調査を定期的に行う。調査結果を全校に発信していく。</p> <p>・なかなか変化がないな。すぐにはヨシによる効果は出ないのか・・・？</p> <p>・環境を以前の姿に戻すということは、大変なんだな。だからこそ、今ある自然環境を大切にしないといけないな。</p>	<p>○調査結果を毎年蓄積していき、長い目で見て、「ヨシ行けどんどん作戦」の効果を分析する。変化を見つけ、代々続いてきた活動の意義を改めて実感させる。変化がなかったとしても、失われた自然をもとに戻すことの難く、今ある自然環境を大切にしていかなければならないことを実感させる。</p>	<p>(ア) ② (イ) ①</p>